

愛媛県新居浜市金子校区
地区防災計画



みんなで助け合い つながる町「金子」

令和5年2月

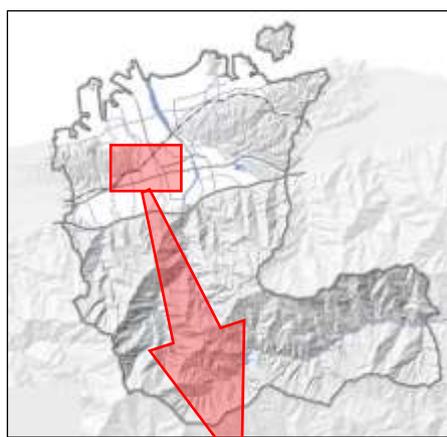
1 地域の概要

金子校区は、市のほぼ中心部に位置し、全域が平地の住宅地であり、市の中心市街地にあることから、市役所、北消防署、警察署、税務署、裁判所など主な官公庁が集中しています。

校区内には、金子小学校、南中学校、地域交流センター、ウイメンズプラザ、新居浜高専があり、災害時には避難所として活用されることとなります。

中央部には国領川、尻無川、東川の3本の二級河川が存在し、全域が洪水による浸水想定区域となっていますが、山地はありません。

また、スーパーマーケット、ドラッグストアがあり、災害時における物的支援を受けることができます。



2 社会特性

(1) 世帯・人口構成及び比率

(令和5年1月現在)

世帯	比率(%)	人口	比率(%)	男性	比率(%)	女性	比率(%)
5,420	9.4	10,958	9.5	5,376	9.7	5,582	9.4

(2) 避難行動要支援者数(市で確認済みの人数)

(令和5年1月現在)

対象者数	同意	不同意	その他
304	172	36	96

3 自然特性・災害特性(地域で起こりうる災害)

(1) 被害想定

想定震度	津波浸水深及び浸水開始時間	液状化危険度
7	0.5～3m 6時間後	極めて高い(30<PL)※
土砂災害	洪水浸水	ため池浸水
特別警戒区	なし	0.5m未満
警戒区域	なし	
	0.5～3m 家屋倒壊あり	

※ PL=液状化可能性指数。数値が大きいほど液状化の危険性が高くなる。

(2) 地理的特性

流域河川	二級河川	国領川、尻無川、東川
	普通河川	なし
洪水浸水想定区域	一宮町、久保田町、八雲町、平形町、田所町、庄内町、江口町、北新町、城下町	
土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域	なし	
南海トラフ巨大地震による津波浸水想定区域	北新町、江口町	

(3) 想定される災害

災害種別	被災内容	備考
地震	想定震度7(建物倒壊、液状化、ため池決壊)	
津波	最大想定浸水深0.5m～3m(地震発生から6時間後)	20cmに達する時間
洪水	最大想定浸水深0.5m～3m(想定最大規模)	
土砂災害	なし	

4 防災の取組状況（予定）

取組時期	取組内容	対象
毎年5月中旬	校区防災運動会（応急手当、救急搬送、災害対応の訓練）	地域住民
毎年11月下旬	校区防災訓練（応急手当、給水、資機材の取扱い等）	

5 災害時の課題

区分	課題
地震	滝の宮配水池損壊による送水管破損 土砂崩れによる断水
水害・土砂	橋脚に流木が引っ掛かることによる河川（国領川、尻無川、東川）の溢水 滝の宮大池の決壊

6 災害時の現状

区分	現状
地震	空き家や古い住宅の倒壊により通路が遮断される。 家屋が密集しているため、火災の拡大・救助の遅れ等、被害の拡大が懸念される。
水害・土砂	周辺の家屋が浸水する。 3大河川沿いでの水害（浸水）が考えられる。 排水ポンプ停止による用水路周辺での浸水が考えられる。 水路が詰まると大きな河川以外でも浸水被害（床上・床下）がある。 水路のフタが無い場所が多く、転落の危険がある。
避難所運営	避難先への避難のタイミングが不明である。 避難所運営のシミュレーションができていない。 （自治会員と非会員の交流不十分による支援体制の不備） 避難所運営の経験がない。 災害時の行政と地域の役割分担を明確にする必要がある。 避難所が機能せず、避難所から避難所への避難があった。
自助共助の向上	防災放送での災害情報伝達が不十分である。 避難場所等の周知徹底ができていない。 災害時に助け合えるような日頃からのコミュニティが不足している。 地域のつながりが希薄化しており、自治会加入者が減少している。
要支援者の支援	個人情報等の壁で要支援者の情報が周知されにくい。 要支援者の支援訓練等が行われていない。
その他	災害物品の総量や保管場所が不明である。 防災士の役割や活動が明確になっていない。 山がなく、土砂崩れの心配が少ない。 古い町並みで道路が狭い。

7 災害時の対策

区分	対策
地震	家屋の耐震改修を促す。 屋内では家具転倒防止を図る。
水害・土砂	マイタイムラインを作成する。
避難所運営	防災訓練、避難訓練を継続して実施する。 HUG（避難所運営ゲーム）を実施する。 避難所設営訓練を住民参加で行う。 校区（金子・金栄）や組織（連合自治会・小学校・中学校）の合同で防災訓練を実施する。
自助共助の向上	挨拶や声掛け等、日頃から地域コミュニティを大事にする習慣づけを行う。 近所との関係づくりを図る。 防災組織の整備と組単位での連携を強化する。 防災ラジオ、インターネット、防災行政無線、テレビ、隣近所などから情報を入手する。 避難先や避難のタイミングを決めておく。（まずは自分→家族→地域） 非常持出品（薬、通帳、現金、スリッパ、保険証、マスク、体温計、消毒液ラジオ、水、食料、スマホ、充電器）を準備して日頃から確認し、ローリングストックしておく。
要支援者の支援	近所の要支援者の情報を知り、優先順位を明確にしておく。 要支援者の確認と支援訓練を実施する。
その他	資機材、備蓄の把握を通じた組織の連携を図る。 自治会、交流センター、避難所が保有している防災用品リストの見える化を行う。

8 緊急避難場所及び避難所

施設名		収容人数		使用制限
		緊急避難場所 として	避難所として	
金子小学校	校舎	5,452	1,362	風水害2階以上
	体育館	1,033	258	風水害×
	グラウンド	10,358	—	
南中学校	校舎	4,628	1,156	風水害2階以上
	体育館・武道場	1,544	386	風水害×
	グラウンド	12,699	—	
新居浜高専	第1・2体育館 武道場	2,038	509	
	尚友会館 図書館ロビー	888	221	
	合宿研修所 八雲荘	349	86	
	グラウンド	22,251	—	
ウイメンズプラザ		2,088	522	
地域交流センター		945	236	風水害2階以上

9 自主的な緊急避難場所

施設名	受け入れ自治会	使用制限	備考
田所自治会館	田所自治会		
八雲ガーデン	八雲町		
プラチナガーデン	一宮町		
久保田自治会館	久保田自治会	地震× 風水害2階以上	
一宮自治会館	一宮自治会		
平形自治会館	平形自治会		
江口自治会館	江口自治会	津波・高潮×	

10 防災活動計画（5ヶ年計画）

（1）校区

実施内容 (実施対象)	年度計画					目標
	R5	R6	R7	R8	R9	
まちあるきで金子の現状把握 (各自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	危険箇所を把握する。
避難所設営訓練 (連合自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	役割分担や運営体制を構築する。 資機材情報を反映する。 避難所（小学校・中学校・高専・ウイメンズ・交流センター）でローリング実施する。
避難経路マップの作成及び経路周知 (各自治会)	⇒	実施	⇒	見直	⇒	まちあるきを反映した防災マップを作成し、全自治会員に周知する。
要支援者の確認と支援訓練 (各自治会・支部社協・民生委員)	検討	⇒	実施	⇒	⇒	要支援者を毎年確認し、支援方法を2年で検討、その結果を訓練に反映して検証する。
防災資機材の見える化 (連合自治会・各自治会・交流センター・小学校・中学校)	実施 (リスト)	対応 検討	⇒	⇒	⇒	防災訓練に活かすため、対象ごとにリスト化し、共有して過不足を解消する。
防災訓練（継続） 防災組織の整備 (連合自治会・各自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	マップを活かした訓練を実施し、防災組織の見直しを行う。

(2) 自治会

実施内容 (実施対象)	年度計画					目標
	R5	R6	R7	R8	R9	
一時避難場所の周知 (各自治会)	実施 (周知)	検討	⇒	検討	⇒	全自治会員に一時避難場所を周知する。
自助の呼びかけ（防災グッズ） (各自治会・連合自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	連合自治会の素案を単位自治会が活用し、全自治会員へ呼びかける。
日常のコミュニケーションづくり (各自治会・連合自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	継続的な自治会活動を実施する。
防災規定・防災組織整備、組織単位での連携強化 (各自治会)	見直	⇒	見直	⇒	見直	自主防災組織の見直しを行う。
放送設備・情報伝達の整備 (各自治会・連合自治会)	検討	実施	⇒	⇒	⇒	①既存の防災無線の整備（更新） ②情報伝達手段の再検討（防災無線に加えてラジオなどの手段の活用について検討する。）
防災訓練（設営訓練含む。） (各自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	毎年防災訓練（設営訓練・機能検証）を実施する。

(3) 家庭

実施内容 (実施対象)	年度計画					目標
	R5	R6	R7	R8	R9	
命を守る (一人一人・家庭)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	水、食料、トイレ用品等を備蓄する。 家具転倒防止、耐震改修を行う。
避難 (一人一人・家庭・地域)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	非常持出袋を用意する。 避難所を特定し、経路を確認する。 マイタイムラインを作成する。
意識改革 (一人一人・家庭)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	地域特性を確認する。 近所と良好な関係を築く。 防災訓練に参加する。